

平成17年度 国立大学法人等職員採用 (図書系)二次専門試験

小論文筆記問題

注意事項

1. 解答時間は正味1時間です。
2. 解答用紙の記入について
 - (ア) 解答は濃くはっきり書き、書き損じた場合は、解答の内容がはっきり分かるよう訂正してください。
 - (イ) 表側の各欄にそれぞれ必要事項を記入してください。
 - (ウ) 書ききれない場合は、裏面を使用してください。
 - (エ) 解答用紙には、受験番号、通知書番号、氏名及び解答以外は記入しないでください。
3. この問題集及び解答用紙は、持ち帰ることができません。なお、試験時間中に、この問題集を、切り取ったり、転記したりしないでください。
4. 下欄に受験番号等を記入してください。
なお、この問題集の余白は下書きに使用して差し支えありません。

第一次試験受験番号	第一次合格通知書番号	氏	名
-----------	------------	---	---

指示があるまで中を開いてはいけません。

以下の【参考文章】は、今からちょうど10年前の週刊誌『アエラ』1995年11月13日号に掲載された「もう家庭には本はいらなくなる パソコンでつなく近未来の図書館」と題する記事の1節である。これをもとに、「学術情報のデジタル化と大学図書館」について、1千文字程度（800～1200文字以内）で述べよ。ただし、解答にあたっては、以下の条件に従うものとする。

- (1) 2005年の現在において、大学図書館等で扱う学術情報のデジタル化はどのような状況にあるか、参考文章を踏まえて具体的に述べること。
- (2) あわせて、学術情報のデジタル化に伴って大学図書館の情報サービスはどのように変化していくべきか、という点にも触れること。
- (3) 3つのキーワード
インターネット、OPAC、電子ジャーナル
を含め（順不同）、各キーワードの最初の出現箇所にはアンダーラインを引くこと。

【参考文章】

本や雑誌がデジタルの電子情報として蓄積されるのが「電子図書館」だ。利用者は、例えばパソコンを通じて画面で必要な本を読むことができる。

21世紀初頭に本格化へ

現在、実用化に向けてさまざまな研究が進んでいる。米国では、議会図書館が二〇〇〇年までに五百万件の資料を電子化し「仮想図書館」をつくる計画がある。

日本でも、関西文化学術研究都市に二十一世紀初頭にできる予定の国会図書館関西館は、本格的な電子図書館になりそうだ。

その利点の第一は、どこからでも二十四時間アクセスが可能なこと。例えば、海外に出張していても、パソコン通信などで日本の図書を探ることができる。「貸出中」による順番待ちもなくなる。

読んでいて用語や人物に関心を持ったり、引用などで参考文献が示されたりすることがある。そんな時に電子図書館では、瞬時に参考文献を表示できる。自分で買うには高価で場所をとる百科事典も、簡単に呼び出して用語や人物について調べることができる。

本を探すのも簡単になる。要約、目次、索引など内容がある程度分かるレベルの検索も可能だ。